

諦 崇 寺 報

諦 崇 寺 発 行
藤 井 崇 文 編 集
〒631-0065
奈 良 市 鳥 見 町
2丁 目 28-10
0742 (37) 2569
taisouji.jp



電話相談員研修会

2015年9月15日、東京都港区にある曹洞宗檀信徒会館にて「観世ふぉん」電話相談員養成研修会」が行われました。神奈川県梅宗寺副住職の館盛寛行師（観世ふぉん「電話相談員」が講師を務め、私を含めて9人の受講者が参加しました。

午前9時から始まった研修会は、午前中は「観世ふぉん」が設立された経緯や運営方法、傾聴の基礎となる心構えや注意点を学びました。午後からは、受講者が3人1組となったのロールプレイを通して、傾聴を体感しながら学び、午後4時に研修会は終了しました。

「観世ふぉん」は現在、23人の相談員によって運営されています。毎週日曜日の午後10時から12時の2時間、3台の携帯電話によって相談を受け付けています。各相談員は週続けて相談を受けた後、携帯電話を次の相談員に郵送します。それぞれの相談員はおよそ6ヶ月に1回、電話相談を受けることとなります。



講師の館盛師は、「電話相談の窓口が開いていること」が何よりも大切です。悩んでいる方の多くは、誰に相談して良いのかわからない。その中で様々な相談窓口を一生懸命に探しながら、日々を過ごされています。1つでも多くの相談窓口が開いていて、相談したい時に相談できる窓口がある、ということが重要です。窓口が開いていると思っただけで、「今日は電話しないけど、電話しても良いんだよな。」と時間を過ごして、「また明日も生きてみよう。」と力になります。実際の電話相談に至らなくても、悩んでいる人にとって大きな安心感となります。」と相談受理件数や不在着信件数の多い少ないよりも、まず電話相談の窓口が開設されていることの大切さを話されました。



達磨大師 (諦崇寺)

「私たち僧侶は人びとに慈悲心を説くのですから、私たち僧侶自身にも慈悲心の実践が求められています。大乗仏教における菩薩さまのお誓いは、人びとの苦しみに向き合って、共に解決への道を歩んでいくというものです。大乗仏教の菩薩さまに学びたいという思いを指して、その一つの願れとして、また観世音菩薩のような電話相談でありたいと願いを込めて、「観世ふぉん」の活動が始まりました。」

「水道橋にある仏教情報センターにおいても、曜日ごとに曹洞宗を含めた各宗派が電話相談を行っています。当初はお仏壇の祀り方などの仏事相談を主としていました

が、悩みを聞いて欲しいという人生相談が段々と増え、今では電話相談の約半数を占めるまでになっています。『宗教離れが叫ばれる世の中で、お坊さんに相談したい人なんているのかな?』と思われる方も分かりませんが、こうして実際に世間の人びとから求められていて、その数も増えています。」



永平寺福山諦法禅師 (諦崇寺)

午後の研修は、受講者が3人1組となって、それぞれが相談者・受け手・観察者を務めるロールプレイを行いました。始めは戸惑いながらも、回数を重ねるにつれて、少しずつ上手く役割を務められるようになり、体験してみないと気が付かないことも多くありました。

ロールプレイを終えて、相談者を務めた受講者が、「相談するのも難しい、とよく分かりました。」と感想を述べました。どのよう相談すれば良いか、何をどう話せば良いか、こんなことを相談しても良いのだろうか、答えは見つかるのだろうか…相談者を務めることによって、その苦悩に気が付きました。僧侶としての日常において檀信徒の方がたと真剣に対峙しているつもりであっても、「それでもまだ心を寄せ切れていなかったのでは?。」と考えさせられました。館盛師は、「お坊さんは、相談を受けることは多くても、自分が誰かに相談することはあまり無くて、相談することを苦手とする人が少なからずいます。もしかしたら曹洞宗の僧侶は特にその傾向が強くて、人に頼るよりは自分を磨

いていこう、乗り越えていこうと考える人が多くて、それゆえ相談者役を苦手とする人も多い気がします。だからこそ、相談者役を務めることによって、相談者が話しやすいような雰囲気作りなどに気付くことができます。」とロールプレイで得られる気付きの大切さを話されました。

(相談の)受け手を務めたある受講者は「観察者の人に「ちょっと自分の話をし過ぎていて。」との指摘を受けました。」と述べました。

館盛師は、「受け手自身が話し過ぎてしまうのは、お坊さん特有の弱点も分かりません。相談者に「どうしたら良いですか?どう思いますか?」と聞かれると、お坊さんは、その責任感から「何とか答えないといけない。」と考え、さらに法話などで話すことを比較的得意とするので、ついつい語りたくなる、そして語り出すと止まらな、そんな弱点を持っています。傾聴においては、相談の受け手が話す時間は割から3割が理想で、決して相談の受け手が話したい時間ではなくて、相談者が話したい時間であること心得なければいけません。」と答えられました。

- ①080-11546-7464
 - ②080-11547-5646
- 匿名可。通話料はかかりません。

あとがき

今号の一部は全国曹洞宗青年会の季刊広報誌『SOUSEI』に僧侶向けの記事として掲載されました。活動の一端を知って頂きたいと思、寺報にも掲載します。

電話での相談、もちろん当寺でもお受けしています。ただし私一人ですの午前8時〜午後6時お急ぎなければ平日の午後にお電話してください。なお、匿名での相談にはお答え出来ません。